

海老名市えびな 教員育成土曜学校 ひびきあい塾

自治体情報

人 □ 125,837人

標準財政規模 24,193,931千円

担当課 神奈川県 海老名市 教育委員会 教育部 学校教育課

電話 046-235-4918

ホームページ <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

事業期間 平成20年度から

参考とした施策

関係施策分類

施策の概要

1 取り組みに至る背景

現職教職員はその約40パーセントが50歳代であり、毎年の退職者に新規採用が追いつかず、深刻な欠員状況は今後少なくとも10年間は続くものと考えており、人材育成に主体的に取り組む必要性がある。

2 事業内容（目的・目標・方策）

今後の海老名市の教育を担う人材の育成と資質の向上を目的として、教職をめざす大学生、臨時的任用職員・非常勤職員等として学校に勤務している職員、社会人等を対象に、教員養成及び資質向上の研修の場として教員育成塾を設置した。土曜日の午前中（5月から2月まで毎月2回程度）研修を実施する。市教育委員会の指導主事や市内小中学校の現職教職員等が講師となり、講義形式よりも、小グループによる実践的な内容を基本としている。授業作りのポイント指導や模擬授業を通しての「指導法実践研究」、学級づくりのための「学級経営実践研修」、発達障害や問題行動に関するケース検討等「児童生徒理解研修」を主な内容としている。また、夏季宿泊研修や学校現場での実践研修（市内小中学校での学習支援ボランティア、研究発表会への参加等）も実施している。

平成20年度は71名の塾生を迎えることができた。小グループによる実践的な研修形式を実施するため、指導スタッフ数との兼ね合いから適当な人数であったと総括している。毎年度、70名程度の塾生を確保していきたい。

3 施策の開始前に想定した事業効果

次年度以降の人材確保が図られるとともに、すでに臨時的任用職員や非常勤職員として勤務している者の指導力が向上し、現勤務校において成果を上げることを目指した。

4 導入にあたり工夫・苦勞した点、課題、対処法など

広報活動に苦勞した。記者発表や投込みにより新聞・タウン紙等への掲載もあったが、さらに近隣の大学を訪問し、募集のポスター掲示やチラシ配置を依頼した。

5 現在の成果・実績、今後の展開など

学生からは、大学での講義と異なり、現場での経験に基づく実践的な内容であることが高く評価された。臨時的任用職員や非常勤職員として現場に立つ者からは、小グループでの演習形式が成果を深め、研修の翌週から現場で即活用できる内容が多かったとの評価を受けた。

新年度から、新採用として10名の塾生が本務の職員として海老名の教壇に立つこととなった。また、臨任・非常勤としては16名の継続任用に加えて、新規に10名を任用することができた。

今年度は開講を1月早めて5月とし、研修回数を増やす。内容としては、アンケート結果を受け、模擬授業形式による教科指導法に関する研修の回数を増やすこととした。また、大学生等については学習支援ボランティアとして、市内小・中学校の現場に入る機会をさらに増やしたいと考えている。今年度も、実践的であること、少人数による演習で成果の深化を図ることを基本的な考え方として、研修内容の一層の充実に努めていきたいと考えている。

予算関連データ 海老名市

総額 ①～⑤の計		財源内訳(財源区分:①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
0千円		0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
①～④の名称・所管等	名称					/
	所管					
	金額					
	補助率					